

## 台湾の核果類事情(モモ、サクランボ)

米国農務省GAINレポート 2024年8月1日

これは米国農務省海外農業局台北事務所(台湾)が作成した「核果類年次報告書」を訳したものであり(一部省略)、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

### 要旨

台湾は、米国産果実の成熟した市場である。核果類の中で、台湾はモモを生産しているが、ネクタリンやサクランボは生産していない。台湾の果実消費量は一貫しており、サクランボの需要は安定している。一方、モモ/ネクタリンの需要は長期的な減少傾向が続いている。台湾の今年のモモ生産量はわずかに増加したが、輸入量の減少はより顕著であった。チリがネクタリンの主要な供給国(市場シェア87%)となり、米国の市場シェアはわずか10%にまで減少している。2023販売年度(年度)に、台湾は合計1万776トンのモモとネクタリン及び1万2,268トンのサクランボを輸入した。アメリカからの供給量の減少、ドル高、輸送コストの上昇などの要因により、モモ、ネクタリン、サクランボの価格は今年、いずれも10%以上上昇した。2024年度について当事務所は、モモとネクタリンの消費量は2万7,500トンに減少し、サクランボの消費量は1万1,800トンに減少すると推定する。

### <モモ>

#### 生産

台湾はモモのみを生産し、ネクタリンは生産していない。近年、低温要求量の少ないモモの新品種が導入されるものの、全体としては栽培面積は減少を続けるものと予想される。2024年の台湾のモモ生産量は約1万6,800トンと推定される。

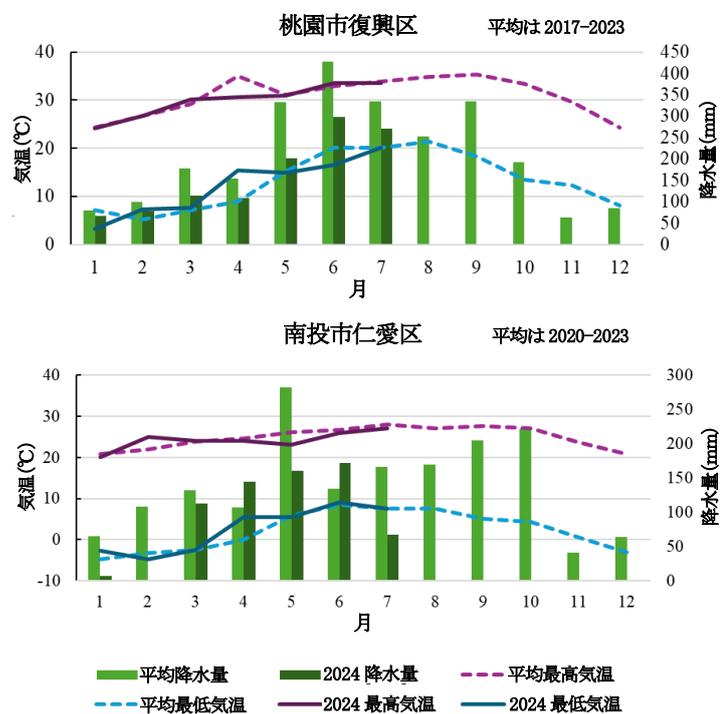
主な産地は台中市(和平区等の高地、新社区、東市区等の丘陵地帯)、桃園市(復興区の高地)、新竹県(建市郷の高地)にある。しかし、異常気象、政策及び環境問題により、丘陵地帯の面積は徐々に増加し、高地での栽培は減少することが予想される。全般的に、2023年の栽培面積は2022年と大きく変わらない。農業部(MOA)のデータによると、一部のモモの果樹は更新され、特定の地域では平均収量がわずかに増加した。したがって、2023年の総生産量は、当初予想された1万7,302トンをわずかに上回る。

近年、暑さが増すに連れて低温要求量の多い品種の開花が不規則になったり、極端な高温によって果実の成熟が早まったり、水不足によって果実が小玉果したりと、10年前に比べて平均的な品質が低下している。

データ(図1)によると、南投市の仁愛区<sup>1</sup>や桃園市復興区などの主要産地では、2024年の降雨量が例年に比べて少なかった。灌漑システムが整備しにくい山岳地帯では、水の供給は主に降雨に依存している。これらの地域の生産者の多くは今年、収量が減少したと報告している。

<sup>1</sup> 南投市仁愛区は台中市和平区に隣接し、両区は一般に同一の産地と認識されている。行政区としては、仁愛区は台湾で5番目に大きいモモ産地である。

図1 主要モモ産地の気候



データ出典: 中央気象局気候観測データ問合せサービス(CODiS)  
注: 山岳地帯の観測所の制限により、仁愛と和平の主要なモモ産地には、これより長い気候データがない。



図2 台中市和平区のモモ園(硬核期) 写真提供: 当事務所

さらに、異常気象の影響で、台湾の降雨パターンが既に変化していることも考えられる。果実の平均サイズが減少し続けていることから、将来のモモ生産はより大きな課題に直面すると見られる。現在、市場に出回っている一般的な果実のサイズは、1果実当たり概ね150～250グラムの範囲である。

モモの品種の更新は、主に政府の農業研究所に依存している。ネクタリン、ドーナツピーチ(蟠桃)、モモの低温要求量の少ないいくつかの品種候補が評価の過程にある。しかし、台湾のモモ市場が縮小しつつあり、利用可能な選択肢も多いため、将来の主流品種を予測することはますます困難になっている。

## 消費と貿易

台湾のモモ生産量の増加が米国から輸入量の減少を補うことはできないため、モモとネクタリンの総消費量は減少を続けている。2023年の消費量は2万8,078トンで、台湾の年間果実消費量の約1%を占めた。当事務所は、2024年度の米国のモモの供給量が約4千トンに減少し、ネクタリンの供給量が1千トンに減少すると予想する。

価格の上昇と予測不可能な品質のため、消費者の購入意欲が低下している。輸送中の果実の外観を保持するため、生産者は長距離輸送中のリスクを軽減しようと早期の収穫を好む。しかし、購入後の熟成段階では、食感に一貫性がなくなり、消費者を失望させることがよくある。

台湾の年間果実生産量と輸入量(及び輸入価格)は比較的安定している。しかし、特にパパイア、パイナップル、グアバ、ドラゴンフルーツ、マンゴー、アボカド等、他の果実が台湾で広く入手可能な夏の期間を中心に、モモは必須の日常の果実とは見なされていない。

台湾のモモの卸売販売量は、台湾産か輸入かを問わず減少を続けており、これに伴って卸売価格は上昇している。輸入されたモモの平均卸売価格は約10米ドル/kgで、台湾の市場では比較的高いと考えられている。今年、チェーンスーパーマーケットでは米国産モモのサイズが縮小し、価格は約20%上昇した。台湾産のモモも約10%の価格上昇が見られ、平均卸売価格は約4米ドル/kgである。モモの種類が多岐にわたるため、伝統的なモモ、低温要求量の少ないモモ、特定の地域産の低温要求量の多いモモの間で出荷時期が重なり、消費者の期待と入手できる選択肢との間に不一致が生じている。特に高品質のモモは価格が高く、品質が期待外れであると、消費者の再購入率が低下する可能性がある。

近年、忙しくて実店舗を訪れる頻度が少ない若い世代に牽引されて、果実のオンラインショッピングが急増している。しかし、モモの出荷シーズンや産地に詳しくないことから、オンラインショップではチリ産ネクタリンを「シュガースポットハニーピーチ」(糖斑水蜜桃)と命名するなど、一貫性のない命名や市場に出回る品種が混ざり合う一因となっており、モモ市場の規模縮小にさらに影響を与えている。

米国は依然としてモモの主たる供給国であり、2023年には87%の市場シェアを占めている。しかし、2016年と比較すると、2023年の米国産モモの供給量は45%減少した。今年は、暑い天候のため、モモの出荷シーズンが早く始まったことで、米国産モモの輸入は前年同期に比べてわずかに増加した。しかし、米国では昨年、リステリア菌によるモモの汚染があったとの記録<sup>2</sup>があるため、台湾当局は今年台湾に到着したモモの最初の2つの荷に対してリステリア菌の検査を実施し、通関に要する日数が5日間長くなった。荷からはリステリア菌による汚染は発見されなかったが、この一件があったことから、多くの供給業者がさらなる通関の遅延を恐れて出荷を躊躇したり、遅延させたりした。

<sup>2</sup> [モモ、ネクタリン、プラムにかかるリステリア菌の発生について\(英文\)](#) 及び [台湾食品薬物管理署アラート\(英文\)](#)

同様に、ネクタリン市場も縮小しており、米国はもはや最大の供給国ではない。2023年には、ネクタリンの総輸入量は5,689トンに減少し、チリ産のネクタリンは全体の87%である4,971トンを占めた。対照的に、米国からのネクタリン輸入量は初めて1千トンを下回るわずか583トンで、市場シェアは10%であった。今年上半期の輸入量はすでに2023年に近づいており、総輸入量は6,200トンに達すると推定される。チリ産ネクタリンの供給量は今後も増加すると予想されるが、米国产の供給量は1千トン未満にとどまると見られる。



図3 右：米国産水蜜桃(80台湾ドル/個)、左上：台湾産水蜜桃(130台湾ドル/600g)、同日に同じ果実店で撮影  
左下：ショッピングサイトではチリ産ネクタリンを「熱帯水蜜桃」と命名

### モモの輸入先国別輸入量(トン)と市場シェア(%)

輸入先国 \ 年	2016	2018	2020	2022	2023
米国	7,854 (97%)	7,589 (97%)	7,281 (96%)	6,080 (93%)	4,441 (87%)
日本	272 (3%)	245 (3%)	285 (3%)	396 (6%)	362 (7%)
チリ	2	6	14	26	284
ニュージーランド	1	12	11	-	-
オーストラリア	-	-	6	15	-
合計	8,129	7,851	7,597	6,517	5,087

### ネクタリンの輸入先国別輸入量(トン)と市場シェア(%)

輸入先国 \ 年	2016	2018	2020	2022	2023
米国	7,523 (65%)	3,267 (47%)	3,131 (45%)	1,048 (17%)	583 (10%)
チリ	4,048 (35%)	3,644 (52%)	2,665 (39%)	4,857 (79%)	4,971 (87%)
オーストラリア	91	81	91	271	135
ニュージーランド	-	6	0	-	-
合計	11,632	6,998	6,888	6,176	5,689

データ出典：台湾農業部(MOA)

## 台湾のモモ・ネクタリンの生産需給統計

モモ・ネクタリン(生鮮) 販売年度の始まり 台湾	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年1月		2023年1月		2024年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	1,934	1,934	1,900	1,939	0	1,930
収穫面積(ヘクタール)	1,926	1,926	1,895	1,914	0	1,925
結果樹本数(千本)	681	681	672	677	0	675
未結果樹本数(千本)	3	3	3	10	0	8
果樹総本数(千本)	684	684	675	687	0	683
商業的生産量(トン)	17,068	17,068	16,500	17,302	0	16,800
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	17,068	17,068	16,500	17,302	0	16,800
輸入量(トン)	12,700	12,693	12,000	10,776	0	10,700
総供給量(トン)	29,768	29,761	28,500	28,078	0	27,500
国内消費量(トン)	29,768	29,761	28,500	28,078	0	27,500
輸出量(トン)	0	0	0	0	0	0
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	29,768	29,761	28,500	28,078	0	27,500

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

## <サクランボ>

### 生産

台湾はその亜熱帯性気候がサクランボの生産に適していないため、サクランボを生産していない。需要は完全に輸入に依存している。

### 消費と貿易

2024年初頭の国境検査の強化によりチリ産サクランボの輸入がわずかに減少したことから、2023年度は再び米国のサクランボの供給量がチリを上回ることができた。しかし、米国産サクランボの水際検査の強化と、価格設定に関わるその他の要因により、2024年の両国からの供給量はほぼ同じ5千トン程度と予想される。当事務所は、2024年度の消費量を約1万1,800トンと推定する。

今年は猛暑の影響で、米国のサクランボの出荷シーズンが早く始まり、終了も例年より1～2週間早くなると予想される。台湾は主にワシントン州からサクランボを輸入しているが、今年はワシントン州のサクランボの生産量がわずかに減少した。さらに、米ドル高と輸送コストの上昇により、米国産サクランボの小売価格は約15～20%上昇した。夏には多様な地元産の果実が手に入るのに比べて、冬は地元産果実の選択肢が少なく、サクランボの需要は年末年始の休暇シーズンに強いため、冬はサクランボの価格にそれほど敏感ではない。

昨年の国境での多数の残留農薬違反事件を受けて、サクランボの主要な輸入先であるチリと米国はともに今年、国境検査措置の強化に直面している([GAINレポート TW2024-0004](#))。これらの措置は、通関手続きと保管コストの不確実性を高める。しかし、今年はチリ産サクランボの国境での違反が検出されず、これは来年は通常の検査率(2～10%)に戻る可能性があることを示唆している。反対に、昨年の残留農薬違反により米国のサクランボには課題が残っており、最大残留基準(MRL)の承認手続きは2025年末より前には完了しないと予想される。

チリと比べると、アメリカから台湾へは直行便が多く、移動時間も短い。アメリカ産サクランボは収穫から消費者までの時間が最短で、その結果鮮度がより高い。トルコは2021年に台湾市場への生鮮サクランボの輸出アクセスを獲得したが、現在までに台湾へのサクランボの輸出はない。トルコ産のサクランボは、アメリカ産サクランボの主要な競争相手になると予想されるが、米国と台湾の間の長年にわたる安定して信頼感の強い貿易関係は、台湾市場におけるアメリカ産サクランボは他国産に代えがたいことを確実にする上での利点である。

図4 台湾のサクランボ輸入量(2016~2023年度)

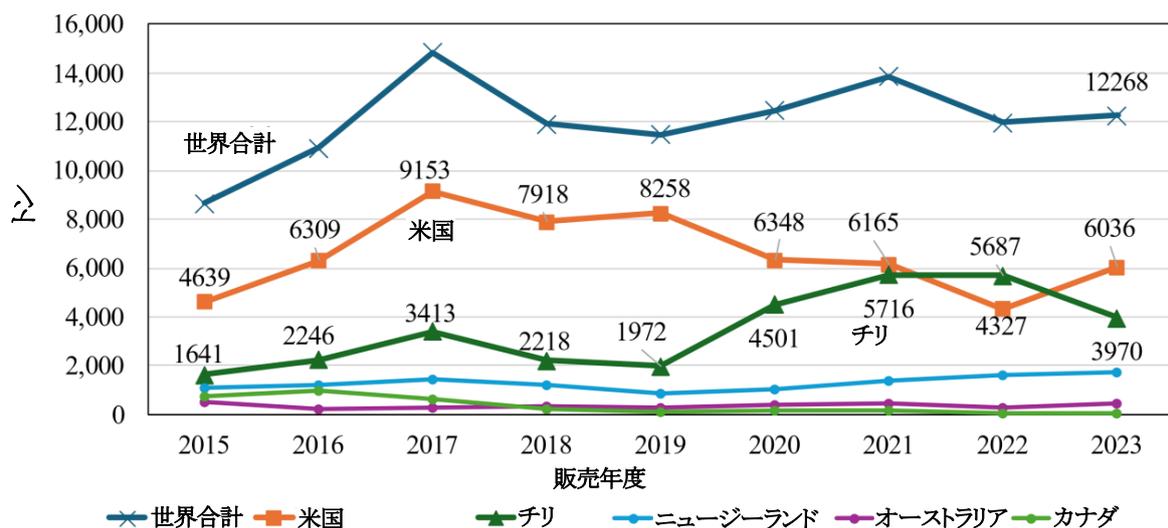


図5 空輸された生鮮サクランボ



(写真提供: 果実輸入業者)

台湾のサクランボの生産需給統計

甘果アウトウ・酸果アウトウ(生鮮) 販売年度の始まり	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年4月		2023年4月		2024年4月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
台湾						
栽培面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹総本数(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	0	0	0	0	0	0
輸入量(トン)	12,000	12,005	15,000	12,268	0	11,800
総供給量(トン)	12,000	12,005	15,000	12,268	0	11,800
国内消費量(トン)	12,000	12,005	15,000	12,268	0	11,800
輸出量(トン)	0	0	0	0	0	0
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	12,000	12,005	15,000	12,268	0	11,800

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。